

「海外旅行と日本人」  
ブルース・L・バートン  
1996年8月2日

いよいよ8月に入り夏が本格的にスタートします。これから海外旅行に行く方が大勢いらっしゃるかと思いますが、今回は海外旅行をテーマにしたいと思います。

海外へ行く日本人の数は年々増える傾向にあり、去年は過去最高の1万5千298人が海外へ行って来ました。10年前に比べたら3倍、20年前に比べたら6倍増えているこの数字は、日本の総人口の12%にも当たり、去年だけでも国民の8人に1人が海外旅行に行ったという計算になります。

こうした海外旅行ブームを生み出した背景は色々ありますが、なかでも重要なのは、国民の所得や休暇の増加、円高などによる割安感、レジャーの多様化などです。日本が先進国となって社会や経済が成熟してきたお陰で、国民が海外に行ける金銭的余裕や時間的余裕を持つようになってきた、といえましょう。

では、海外旅行の内容について考えましょう。総理府の調査によると、日本人が海外旅行先でしたい行動は、「美しい自然風景を見る」というのが一番多く、続いて「珍しい料理を食べたりショッピングをする」とか、「史跡・文化財・博物館・美術館などを鑑賞する」と答える人も多いそうです。海外で「のんびりとくつろぎたい」と答えた人もいましたが、数的にはかなり少ないそうです。

外国で壮大な景色を見たいとか、食事や買い物を楽しみたいという気持ちは、当たり前だと思いますし、よく分かります。自分の貴重な時間やお金を使うわけだから、それに値するだけの経験をしてきたいものです。その場合、物理的に目に見えるもの、写真にとれるもの、手にとって持って帰るものなどが、旅行をどれだけ楽しめたかを計る客観的な指数になります。ノルマを達成しないと安心して帰れません。

旅行は本来こういうものかも知れませんが、こうしたパターンの旅行は日本人に特に多いような気がします。普段の生活が忙しいから旅行先でもその忙しさから精神的に抜けられないと言うのが原因でしょうけれども、本当は忙しいからこそ旅行に言った時ぐらいいはくつろいだ方がいいのではないのでしょうか。

総理府の調査でもう一つ気になったことがあります。回答のなかに、「外国人に知り合う」とか「外国の文化について学ぶ」と言った項目がなかったことです。

調査のやり方にもよるかも知れませんが、これはちょっと意外で残念な結果ですね。もちろん海外に行く主要目的でなくても、結果としてこうした外国の人と楽しい会話をしたり友達になったりすることがしばしばあるかと思いますが、こうした出会いはみなさんが考えているより大事です。

日本と世界の関係は、科学技術の進歩や国際的組織の発展によってますます深まってくると考えられますが、こうした流れのなかで外国のことが分かる日本人、日本のことを理

解してくれる外国人が今より以上に要求されるようになるに違いありません。

一般の海外旅行は短いのですが、いらっしゃる人数が多いだけに、こうした旅先での民間交流は、外務省や総理大臣が行う外交よりも重要なものだと思います。ちょっと大袈裟かも知れませんが、これから海外にいらっしゃる皆さんは短期間ながら日本国の「全権大使」を勤めることになるといっても過言ではないかも知れません。

では大使の使命をちゃんと果たすためにどの心構えで海外に行けばよいのでしょうか。取りあえず次の4点に留意していただきたいと思います。

まずは、ごく当たり前のことですが、少しでも行き先の国の言葉を覚えておくといいですね。もちろん、日本人が大勢行く観光地ですと日本語が通じてしまう場合もあるし、片言の英語さえできれば世界のどこに行っても何とかできます。それに、今から行くなら、新しい言葉をマスターする時間ももちろんありません。しかしそれにしてもいくつかの単語やフレーズを暗記することができるだろうし、その努力をした方が、現地の人に喜ばれるに違いありません。相手に対する礼儀と思ってやってください。

二点目は、その国の言葉だけではなく文化や社会についても勉強しておくことです。

「郷に行かば郷に従え」と言う諺がありますが、そこまでやらなくても、その国や社会の現状を常に念頭に置いて行動した方がいい結果が出ます。日本の常識は海外では通用しない場合が多いからです。

また、日本人同士でしたら、何も言わなくても以心伝心で心が通じ合うことがあります。何も口にしなくても、周りの人が都合よくこちらのニーズに気づいて暮れますから非常に楽です。しかしこうした国内用のコミュニケーション方法は外国では通用しません。文化が違うからです。この場合は、分かってくれない相手があるのではなく、相手が分かるように言わないこちらが悪いと考えた方がいいのです。

しかしだからと言って外国だったら何を言ってもかまわないということにはなりません。外国に行っても言っていることと悪いこととがあります。やっていいこととやってはいけないこともあります。国内ではおとなしい日本人が外国に行くだけであらゆる社会的規制から解放されたようにとんでもない行動に出ることはときどきあります。これはやはりいけません。国内ではやらないような行動は海外においてもやめましょう。

第三点も、その国と日本との関係を常に念頭に置くべきだ、ということです。日本人がよく行く外国を調べると、アメリカが一番多くて全体の3割以上を占めます。二番目は韓国で、続いて香港、中国、台湾、オーストラリア、シンガポール、タイの順になっています。考えてみれば、これらの国は皆第二次世界戦争において日本と戦ったか日本から被害を受けた相手です。終戦からすでに半世紀以上経っているからもう関係ないと思われる方もいらっしゃるかも知れませんが、決してそんなことはありません。アメリカ人が広島や長崎を訪ねる時にそれなりの心構えや態度が必要であると同様に日本人も戦争で被害を受けた地域に行くときもその歴史を一応念頭に置くべきではないでしょうか。

或いは戦争までさかのぼらなくても、日本企業の海外進出などをめぐっては是非両論があ

るはずですが、日本や日本人がその地で歓迎されているか嫌われているかということを一応把握した上で適切な態度で行きましょう。

最後になりましたが、第四点は、身の回りの安全を確認しながら行動しよう、ということです。例えば、日本国内では皆さんは普通綺麗な格好をしています。人前ではちゃんとした姿を見せたいからだと思いますが、外国に行って同じ格好をしていい場合と悪い場合があります。貧富の差が激しい国でしたら、かえって人々の嫉妬を買ったり盗難を招いたりすることがあるから要注意です。最近海外の旅先で日本人がトラブルに巻き込まれることが多くなっていますが、多くの場合は、現地の事情をもう少し勉強しておけば未然に防げたものだと思います。やはりこの点について旅先の現状をよくふまえた上で行動することが大切です。

繰り返しになりますが、海外に行く場合は予習が大切です。少しでも勉強しておくと、よりよい旅になります。

では。